

今日のキーワード 注目される日本企業の『大型新薬』

日本の製薬企業は欧米企業に比べて業績が低迷していると言われてきました。この背景には政府の医療費抑制策に伴う薬価の引き下げと後発薬の使用率引き上げや、主力薬が特許切れを迎えるなかでの新薬不足などがあります。ところがここに来て、自社の得意分野に特化した研究の成果などから、日本企業の『大型新薬』が発売されたり承認を目指す動きが続いており、今後の動向が注目されます。

ポイント1

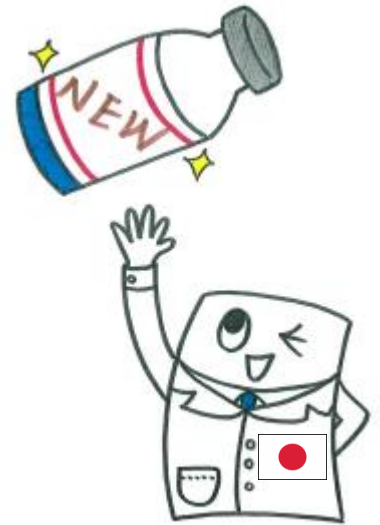
業績伸び悩みの背景に医療費抑制策や新薬不足 『大型新薬』発売や承認申請の動き

- 日本企業の業績低迷の背景には、後発薬の使用率引き上げなど政府の医療費抑制策と新薬不足がありました。新薬が、化学合成による医薬品から欧米企業が得意なバイオ医薬品にシフトしたことも影響しました。
- 新薬不足などに対応するため、欧米企業は企業買収などを進めたのに対して、日本企業は自社の得意分野に特化した研究を進めた結果、ここに来て『大型新薬』発売や承認申請への動きが顕在化しています。

ポイント2

「オブジーボ」は使用領域拡大により大型化 アルツハイマー病治療薬などでも期待の『大型新薬』

- 小野薬品工業と米製薬大手が共同開発した「オブジーボ」はがん細胞が持つ免疫細胞の活動を抑制する能力を解除し、免疫機能を覚醒させる新しいタイプのがん治療薬です。希少疾患を治療できることから極めて高い薬価が付きました。その後、薬価は引き下げられましたが、患者数の多い肺がんや胃がんへ使用が拡大し、『大型新薬』となりました。
- 1兆円市場ともいわれるアルツハイマー病治療薬で他社の治験失敗が相次ぐなか、イーザイは7月6日に同薬の治験で有効性を確認したと発表し注目を集めました。同薬は米バイオ医薬大手と共同開発で通常3段階ある治験の第2相治験を完了しました。かつて同社の収益を牽引した「アリセプト」の後継として期待されます。
- 塩野義製薬が3月に発売した従来との製品とは違う仕組みのインフルエンザ治療薬「ソフルーザ」や、治験結果を受けて第一三共のがん治療薬「ADC（抗体薬物複合体）」なども注目されています。



今後の展開

独自性の高い『大型新薬』が注目される

- 期待の高い新薬候補を持つ企業に対する株式市場の評価は高く、イーザイ、第一三共の株価は昨年末対比約50%程度上昇しました。ただ欧米の大手製薬企業との販売規模や研究開発投資額には大きな開きがあり、国内企業が独自性の高い『大型新薬』を引き続き投入していけるか注目されます。

※個別銘柄に言及していますが、当該銘柄を推奨するものではありません。

ここも チェック!

2018年8月6日 男女の『平均寿命』が過去最高を更新
2018年6月6日 訪日客効果の恩恵の大きい『ドラッグストア』

■当資料は、情報提供を目的として、三井住友アセットマネジメントが作成したものです。特定の投資信託、生命保険、株式、債券等の売買を推奨・勧誘するものではありません。■当資料に基づいて取られた投資行動の結果については、当社は責任を負いません。■当資料の内容は作成基準日現在のものであり、将来予告なく変更されることがあります。■当資料に市場環境等についてのデータ・分析等が含まれる場合、それらは過去の実績及び将来の予想であり、今後の市場環境等を保証するものではありません。■当資料は当社が信頼性が高いと判断した情報等に基づき作成しておりますが、その正確性・完全性を保証するものではありません。■当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらの知的所有権その他の一切の権利は、その発行者および許諾者に帰属します。■当資料に掲載されている写真がある場合、写真はイメージであり、本文とは関係ない場合があります。